

東京・山谷

ホスピスケア施設 「きぼうのいえ」

自分にして欲しいことを他人にする――

日本で唯一、身寄りのないホームレスの人を受け入れているホスピスケア施設「きぼうのいえ」。間もなく1周年を迎える同施設では、すでに5名の方が息を引き取っている。カトリック信者である施設長の山本雅基氏は、この施設を通して、行き場がなく希望を失った人々が神の愛に触れられることを願い、看護師の資格を持つ妻の美絵さんと共に、同施設を東京・山谷に建てた。



施設長の山本氏と美絵夫人

「きぼうのいえ」は現在、毎月百万円の赤字を抱えている。しかし山本氏は「御心であれば、この施設が潰れることはありません」とあきらみません。そこには、「主はこれまでに、絶対に不可能だと思われてきたときにも力強い御手を伸ばして介入して下さいました。だから、これからも主は必ず助け下さる」という確信がある。

山本氏がクリスチャンになったのは二十歳のとき。神父が牧師になり

身寄りのない人、ホームレスの人のために

した後は、専従事務局長になり、二〇〇一年三月までその活動を続けた。山本氏が在任中に国からの補助があり、その活動は軌道に乗る現在も順調に続いている。

「ファミリーハウス」を退職後、山本氏は山谷に溢れている行き場を失った人々のために「きぼうのいえ」を設立するた

た。しかし、病気で余命いくばくもない身寄りのないお年寄りや、ホームレスの人のための施設を作りたという不動産屋を訪ねても、どこも相手にしてくれなかった。しかし、ある不動産屋から、自分で土地を購入して施設を建てるなら誰も文句は言えないはずだ、と説得され、山谷に土地を購入することに決めた。それは一億円以上のお金が必要だった。途方に暮れているとき、知人の牧師たちが連帯保証人となってくれ、銀行から融資を受けることができた。

その後、二週間後に六



「きぼうのいえ」正面入口

千円円の支払いを控えて、どうしようもなくなくなったときには道を用意して下さいました。知り合の先生に紹介された、聖公会の団体にお願ひに行くと五十万円の献金が与えられ、銀行も一億円を貸してくれることになった。若い頃、宣教師の「神さまは不思議な方法で全てに必要なものを下さる」という証を何度聞いても半信半疑だった山本氏も、このときはかりは「本言に、不可能なことが可能になる瞬間を体験しました」と神の御業にただただ立ち尽くすばかりだった。

困難を乗り越えて、昨年の一月にやっと「きぼうのいえ」の建物が出来上がった。自分にして欲しいことを他人にする――

成し、オープンするごんです。自分にして欲しいことを他人にするから介護と施設運営というさらに過酷な日々が待っていた。老人ばかりだから、静かで平和な日々であると思える人も、実際は入居者間でいざこざもある。刃物を持つて襲れ回る人や、善意で行った行為に腹を立て、蹴りつけようとする人がいたり、平穏無事という言葉を正反対の日々が繰り返している。しかし、山本氏やスタッフの無償の愛で行い心を開き、少しずつ優しく希望を取り戻す人がいるのもまた事実だ。

「きぼうのいえ」には、テレビオ付きの新しくきれいな個室が、座り心地の良いソファのある見出ししている。

献金先・山谷・すみだり
 パーサイト支援機構
 郵便振替 00030・
 3,664814
 東京シティ信用金庫・押
 上支店(普) 07139
 71